



① 笠貫神社 (かさぬきじんじや)
 田谷の鎮守社。
 祭神は手置帆負命(たおきほおのみこと)
 創立年代不詳。
 本殿流れ造り方二間四坪。
 例祭は11月23日。
 境内地は三十八坪。

② 熊野神社 (くまのじんじや)
 須田の鎮守社。
 祭神は伊弉諾尊(いざなぎのみこと)と伊弉冉命(いざなみのみこと)
 例祭は11月23日。
 本殿は四坪。神明鳥居。
 三十七坪の境内は二百坪の山林に囲まれる。

③ 坂戸神社 (さかとじんじや)
 山之上宇坂戸に鎮座する鹿島神宮の境外摂社。
 祭神は天児屋根命(あめのこやねのみこと)
 鹿島三社(鹿島神宮・沼尾神社・坂戸神社)の三社である。本殿は平入り。拝殿は妻入り。社殿は東面しており、東一の鳥居(朝古の御)と正対するは坂戸神社であるという海傳がある。
 坂戸神社境内は古の史跡に指定されている(本宮境内に包括)。なお、本宮境内には坂戸神社の遙拝所がある。

④ 国土神社 (くにどじんじや)
 山之上の鎮守社。
 祭神は大日貴命(おおひなむちのみこと)
 例祭は陰曆10月15日。
 社殿(南向)
 瓦葺き方二間。
 境内地三十九坪。

⑤ 竜会城跡 (りゅうかいじょうあと)
 山之上宇龍會に所在する。
 戦国時代末期、築城半ばにして廃城になったと伝える。
 鹿島城の北方約2千口の舌状台地の西側にあり。
 「竜会城のおお庭様」という民話が残る。

⑥ 水神社 (すいじんじや)
 須賀の鎮守社。
 祭神は水速女命(みずはやめのみこと)
 創建不詳。綿織内匠家の氏神を水速の守護神として祀ったと伝える。
 例祭は11月23日。
 本殿五坪。手水舎半坪。石作り神明鳥居。境内地五十二坪。

⑦ 須賀古墳群 (すかこふんぐん)
 宇智前(そうぜん)の舌状台地の先端に築かれていた。円墳13基を数える。天木玉命(あめのたまのみこと)の御宇に築かれたとされ、山林として利用されてきた。信仰の地としてきたので、保存状態は良好である。
 庚申を祀る庚申塚(こうしんづか)。愛宕神社を祀る愛宕塚(あたごづか)。修験道者が浄土としてきた其天塚(ぼんてんづか)等と称されて、古くから大切にされてきた。

⑧ 白旗神社 (しらばたじんじや)
 須賀の北はすれの台地の麓(ふもと)に宇大作(おおさく)という所があつて、ここに北浦に向けた白旗の巻頭を掲げる小さな社が白旗神社。その後、台地の縁から現在地の低地に遷祀したという。

⑨ 大宮神社 (おほみやじんじや)
 祭神は武甕槌命(たけみかづちのみこと)

⑩ 塚原館跡 (つかはらやかたあと)
 沼尾宇山に所在する。標高3.4m前後の舌状台地先端部にあり、北、西、南の三方を急斜面に囲まれた台地側を幅10m、深さ5mほどの空堀によって区画した複層式である。塚原守在守安殿の居城とされる。剣聖塚原卜高斎を世に出したが、鹿島氏の滅亡とともに滅び、城は四代約200年続いたものと思われる。

⑪ 宝積院 (ほうしゃくいん)
 沼尾に所在した。真言宗豊山派。
 本尊は不動尊であった。寺跡、寺墓地を残す。創建年代不詳。
 幕末にはすでに廃寺となっていたと考えられる。

⑫ 金砂神社 (かなざじんじや)
 沼尾の鎮守社。祭神は大日尊命(おおひなむちのみこと)・天木玉命(あめのたまのみこと)・経津主命(つねぬしのみこと)を祀る。
 例祭は11月23日。
 本殿四坪。
 神明鳥居1基。
 境内地五十一坪。

⑬ 塩釜神社 (しおがましんじや)
 田野辺宇塩釜に鎮座。創建不詳。
 祭神は塩土織命(しおつちのおきなのみこと)
 例祭は11月23日。
 本殿三坪。
 鹿島鳥居。
 境内地二百二十六坪。

⑭ 塚原古墳群 (つかはらこふんぐん)
 沼尾宇山中、狭山、センゴク、南側に点在する。
 前方後円墳・円墳あわせて69基が確認されている。

⑮ 沼尾神社 (ぬまおじんじや)
 沼尾宇原に鎮座する鹿島神宮の境外摂社。
 祭神は香取神宮の祭神・経津主命(つねぬしのみこと)
 鹿島三社(鹿島神宮・沼尾神社・坂戸神社)の三社である。
 本殿は元和年間(896-900)の造営とされ、昭和10年代に破壊され、その後再建された。境内地千六百坪。

⑯ 大門遺跡 (だいもんいせき)
 大字須賀大門に分布する。縄文時代を中心とした歴史文化財の包蔵地であり、旧部家跡の推定地の一つである。大井(うら)小井(こい)は旧部家の門があつたとの推定もある。平成27年の調査では縄文遺構S017という大型の建物が発出され、木製土器(しほくしよどぎ)が出土した。(鹿嶋では朱の文字で書かれた土器は15例目)
 旧部家跡の遺構は見つからないものの、神野向に別家がある時期の沼尾郷の主要な集落が部行の別家と考えられる。

⑰ 梶内遺跡 (かじうちいせき)
 大字沼尾宇原内に分布する。縄文・古墳・奈良・平安時代を中心とした歴史文化財の包蔵地であり、旧部家跡の推定地の一つである。
 塚原遺跡も平成12年に統合されている。
 本遺構は大神宮社周辺に分布し、その台地の広さを推定地と考えられた。

⑱ 田野辺貝塚 (たのべがいつか)
 太平洋戦争中に、地主の高須映氏が防空壕を掘った個所で偶然に海老原幸氏が発見した。台地の下に縄文土器・石器貝類が分布している。タンベシキサゴ・ウミニナ・アカニシ・サルボウ・マガキ・オキシジミ・カガミガイ・ハイグリ・ヤマトシジミが分布している。

⑲ 林城跡 (外城) (はやしじょうあと)
 林城跡(はやしじょうあと)は中城と外城があり、外城は遺構の規模が大きいため、南方三十三路仕置の後に、在竹氏によって手が加えられたという見方がある。
 鹿島三郎成幹の六子成幹が林地区の領主となり鹿島の名前を名乗ったことに始まる。
 曲輪(くるわ)は台地の先端部東西に2か所、深さ7m幅20mの堀を挟んで南に1か所の曲輪が設置される。大規模な造成が施された城跡であり、南側にはさらに外郭施設が広がっている。

⑳ 遠ヶ入遺跡 (とうがいりいせき)
 台地上は遺跡の包蔵地。斜面より鉄滓(てつさい)が出土している。
 ふいこの羽口と鉄滓が出土しているため、製鉄遺跡と考えられる。
 平成11年に遠ヶ入製鉄遺跡が統合される。一部は遷滅した。

㉑ ミシマ遺跡 (みしまいせき)
 代官地事業に伴う発掘調査後遷滅。縄文時代中期と古墳時代の集落跡。
 1975年に豊郷台遺跡群として調査が行われ、縄文時代中期の遺構や漆器、石器が第六住居跡や土坑から多量に出土している。

㉒ 宮中野古墳群 (きゅうちゅうのこふんぐん)
 宮中野古墳群は、現在前方後円墳19基、帆立貝式古墳2基、方墳3基、円墳103基で総数127基が数えられており、ただ、このうち消滅したうち夫塚塚古墳は、2つの階段とともに鹿嶋市指定の史跡になっている。

豊郷地区の歴史・文化に触れる機会として「豊郷ものしりMAP」を作成しました。ぜひマップを活用いただき、ウォーキングなどを楽しみながら豊郷をより深く知ってほしいと考えています。

